

教育の「いま」を解き明かし「みらい」を示唆する

経営学部 新井浅浩

11 月に『最新教育データブック[第 12 版]』を時事通信社から刊行しました。初版を出したのは 1993 年で、筆者を含め編者全員が 30 代でしたが、その時はこのように長く続くとは予想していませんでした。初版以来、毎回データを一新し、またその時々に合わせて新たに特集を組むなど試行錯誤を重ねてきました。

今回の特集は、「教育の創生」です。我が国の教育は、いま大きく変わろうとしています。そのきっかけは、戦後 60 年間続いた「教育の憲法」ともいべき教育基本法が 2 年前に改正されたことです。

それに伴って様々な法律が見直され、これまでになかった取り組みが出てきています。例えば、小中学校等においては、「副校長」「主幹教諭」「指導教諭」などという新しい職が設置されました。

また、いま大学は外部評価、第三者評価の波が押し寄せていますが、それらは幼・小・中・高にも及んできています。このように教育現場は、制度上大きく変化していますが、その背景には、子ども、地域・家庭、教師、社会などの変化があることは言うまでもありません。特集ではそれらを瞥見することができます。

本書には、様々なデータが盛り込まれていて、拾い読みをしても、興味深い事実を知ることができます。いくつかを挙げてみましょう。

不登校が大きな問題として、取り上げられて久しいわけですが、小中学校の不登校の総数は、2001 年度がピークであり、その後は減少しています。ただし、全児童・生徒数に占める割合は、依然増えています。

近年、ニート（若年無業者）という言葉をよく耳にしますが、データで見ると、2002 年以降、総数は、増えていません。ただし、ニートと学歴との関係を見てみると、1992 年では、ニート全体に占める「大学・大学院卒」の割合が 5.8%であったものが、2002 年には、11.2%に増えているのは、気になる数値です。

国内総生産（GDP）に対する学校教育費（教育行政費を含む）の比率を見てみると、我が国のそれは、OECD 加盟国中最低ランクにあることがわかります。学力の国際比較テストの結果では、我が国は高い順位に位置していますので、コストパフォーマンスが高いとも言えます。しかしそれは、例えば、1 学級当たりの子どもの数の多さにつながっていますし、また、小中学校における ICT（情報コミュニケーション技術）の利用は満足できるものではありません。今後は是非教育費にもっとお金をかけてほしいと願うところです。

教育は、全ての人にとっての関心事であり、またそうあらねばならないわけですが、日頃の教育談義を裏切るものにする意味でも、教育のデータを覗いてみませんか。




今回ご紹介いただきました「最新教育データブック・第 12 版」は 1 階年鑑白書コーナー 372.107//Sh49 に所蔵しています。

活用していますか？ レファレンスブック

レファレンスブックってなに？

レファレンスブックは「参考図書」とも呼ばれ、一言でいえば「事典」のことを指します。実際には各分野の事典(哲学事典、歴史事典)などに加え年鑑、ハンドブック、年表、地図、統計資料、入門書といった物も含まれます。

どこにあるの？

主に3階の壁側、そして2階の中央と通路にあります。シールで「参考図書」と貼ってある物がレファレンスブックです。

どんなふうに使うの？

レファレンスブックを使うコツは「連想する」ということです。未知の専門用語を調べたりする場合、それがどういう言葉なのかを知るにはどうしたらいいでしょうか？ 全くわからない場合は「百科事典」や「現代用語事典」を使ってみるといいでしょう。そのほか、

特定の年に起こった出来事を調べる	→年鑑
事物の(医学の分野でも)構造が知りたい	→図鑑
特定のテーマについて人数や件数などの数値を調べたい	→統計
政策に関連する事項について知りたい	→白書

というように調べたい物と使うレファレンスブックを結び付けられるようになると、スムーズな検索が出来るようになります。

手軽なレファレンスブックとして

シラバスルームの図書があります。3階にあるシラバスルームはシラバス掲載の参考文献やテキストを揃えた部屋です。厳密な分類では「レファレンスブック」とは言えませんが、シラバスルームの図書は各教員が講義のために選書したもののなので、授業内容に合致した内容のものがすでに置かれています。一冊は持ち出し禁止のシールが貼ってあり、確実に図書館に残っていますので授業内容に詰まったときなどは一読してみることをお勧めします。

究極のレファレンスブック

何を隠そう、それは図書館員です。様々な事例に接している図書館員は、生きたレファレンスブックとも言える存在です。どんな本を見たらいいのか、どんなデータベースを当たったらいいのか、見つからない本はどうしたらいいのか。そういった疑問にいつでもお答えします。とはいえ、大学の基本は「まず自分で調べること」ですから、困ったときの奥の手としてお使いいただきたいと思います。わからなくなったらまず調べる。そうすることで『自分から調べる力』が身に付いてきますので、ぜひ図書館を上手に活用してください。

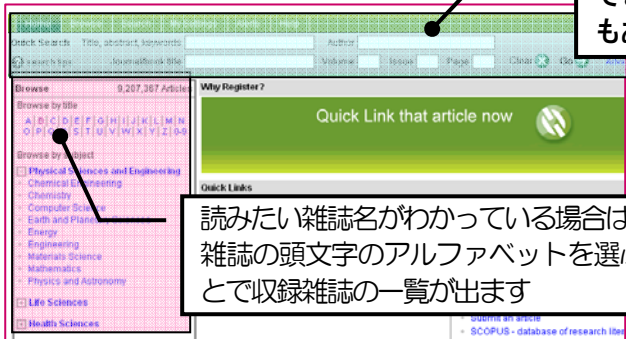
文献検索のためのデータベース紹介 vol.6

Science Direct で科学文献を探してみる

Science Directとは

サイエンス・ダイレクトはエルゼビアサイエンス社が提供する電子ジャーナルで、2,800誌以上の電子ジャーナルに加えて、電子ブックや他の学術出版社・学協会が出版する学術雑誌の閲覧や検索が可能です。さらに閲覧している論文の引用文献から、その参照元の抄録やフルテキストを閲覧することが出来ます。

タイトルから探す



上にある検索窓からは全ての項目から検索できるほか、タイトル、巻号専用の検索窓もあります。

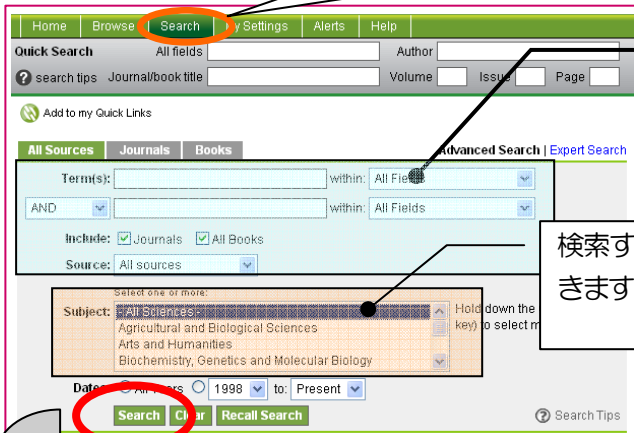
読みたい雑誌名がわかっている場合は雑誌の頭文字のアルファベットを選ぶことで収録雑誌の一覧が出ます

緑の表示はフルテキストで表示可能です
 Full-text available
 Abstract only



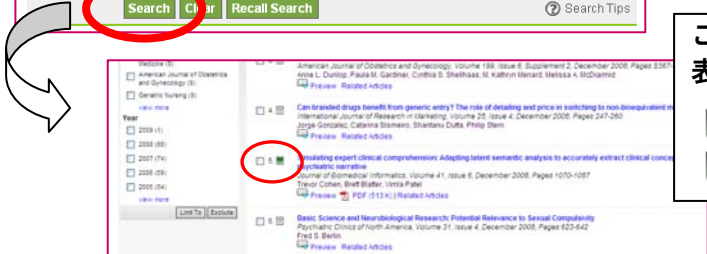
キーワードから探す

サーチを選ぶと検索画面が変わります



キーワードを入力し抄録、著者、フルテキストなどで検索範囲を指定します。

検索する分野を絞り込むことができます



こちらも緑の表示がフルテキストで表示可能です
 Full-text available
 Abstract only

図書館からのお知らせ

在学生は1月24日から長期貸出期間です。
返却日は4月8日になります。

この機会にゆったり読書でもいかがでしょうか。

○卒業年次生の貸出期間は**3月10日**までです。

返却を忘れないようにお願いいたします。

返却は郵送でも受け付けています。確実にお返してください。

○1月17、18日はセンター試験のため休館となります。

今月のお薦め雑誌

からだの科学 2008年 AUTUMN



「かぜとインフルエンザのすべて」

大流行の懸念も抱かれているインフルエンザ。
その仕組みと対策、治療について詳しく解説されています。



化学 2008年 12月号



「2008年ノーベル賞」

4名の日本人ノーベル賞受賞者が出た2008年。
科学分野での研究内容について専門知識を交えながら解説されています。

週間東洋経済 2008年 11/22号



「雇用大淘汰」

世界的な不況で悪化する雇用環境。特集記事では人材とキャリアをキーワード
にこれからの雇用とその在り方を語っています。

週間エコノミスト 臨時増刊 12/22号



「経済大転換 2009」

長期の成長率低下を見込み、世界経済はどう変わっていくのか？
かつての大恐慌、通貨危機などを通じて論じています。

○雑誌は時事問題を詳しく知るのに重要な情報源です。
貸出もできますので気軽に足を運んでみましょう。